

平成 29 年度 【 学園研究費助成金 < A > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ トダ ユキコ
氏名 戸田 由紀子

研究期間 平成 29 年度

研究課題名 マレー半島、台湾、インドネシアにおける日本の占領と戦争の記憶

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	戸田 由紀子	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者	影山 穂波	国際コミュニケーション学部	教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究の目的は、マレー半島、台湾、インドネシアにおいて、アジア太平洋戦争中に日本が占領したときの動向を社会地理学と文学的視座の両面から明らかにすることにある。これまで加害者としての日本の戦争の記憶は忘却されてきたが、日本の植民地主義とその弊害をわたしたちが責任を持って目撃していくことは重要である。日本の占領が一体何だったのか、日本が東南アジアで何をしたのか、その後の対象がいかに表象され現在に至っているのか、日本の占領時におけるマレー半島、インドネシア、台湾の動向を社会地理学的、文学的視座から明らかにすることが本研究の目的である。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

マレーシアのクアラルンプールとペナンおよびインドネシアのジャカルタの戦争博物館および史跡を中心に資料収集および調査を行う。マラヤ大学、マレーシアサイエンス大学、インドネシア大学の研究協力者とともに、日本統治時代の史跡調査、資料収集、聞き取り調査を行う。その上で戸田は、日本の占領について英語で書かれた文献および文学作品についての資料収集およびそれらの分析を行う。影山は、植民地時代の地図・写真をはじめ、手記・解説書を含めた資料を収集した上で、現在のそれらの地域に対する「まなざし」を地誌・観光資料等から比較分析する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

今回、マレーシアのクアラルンプールとペナン、インドネシアのジャカルタ、台湾の台北での現地調査を行い、戦争博物館および市内外に点在する史跡を中心に非常に充実した視察および情報収集を行うことができた。マレーシアのクアラルンプールではマラヤ大学の研究協力者 Professor Sharmani と Professor Furuoka と意見交換し、さまざまな助言をいただくことができた。滞在中日本の占領と関係のある建物や日本人墓地を調査した。また、マラヤ大学および専門書店では入手の困難な資料を集めることができた。マレーシアのペナンでは現地の研究協力者である二村洋輔氏の案内のもと、ペナン戦争博物館に加え、ペナンの町中に点在する遺跡等をまわり、日本の占領についての調査と資料収集を行った。また歴史学者 Clement Liang 氏から日本の占領と統治時代に関する貴重な情報を提供していただくことができた。インドネシアのジャカルタではインドネシア大学の Professor Melani Budianta をはじめとした先生方と貴重な意見交換を行い、今後の共同研究の可能性などについても話し合うことができた。ジャカルタ市内の史跡や日本時墓地、戦争博物館の視察を通して多くのことを学ぶことができた。

また台湾への出張では、台北市内及び台北周辺の日本統治時代の史跡の調査を行った。台北市内の視察では、大稻埕北投、淡水河にある船着き場周辺、西門駅近くの新起街市場や台北天后宮、日本統治時代には遊郭が形成された地域などを回ることができた。台北周辺の視察では、北投温泉地域と金瓜石の鉱山跡である十三層遺跡を東シナ海側より確認した。廃墟となっているが、遠くから当時の様子が推測できた。また黄金博物館で日本統治時代に大規模に鉱山開発を行い、金・銅を採掘していた金瓜石の鉱山に関する資料を確認し、昭和天皇が皇太子だった時代に視察に来る予定で建造や、九份の旧トロッコ通りから、観光地となっているエリアも視察することができた。

これらの現地調査の最も大きな成果は、現在はすっかり変わってしまった、あるいは、忘れられてしまった日本の統治時代の史跡に改めて向き合うことで、日本の占領が一体何だったのか、日本が東南アジアで何をしたのか、その後の対象がいかに表象され現在に至っているのか、マレー半島、インドネシア、台湾における日本の占領の複雑さを把握できたことにある。とりわけ現地で日本の占領に詳しい方に教えていただいたり、日本の統治時代を生き抜いてこられた方の声を聞けたりしたことで、日本の占領の様々な側面を知れたことは非常に有意義であった。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①日本の占領	②戦争の記憶	③ マレー半島	④ インドネシア
⑤台湾	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

今後は、今回訪問することができなかった国立アーカイブやシンガポールの国立図書館で資料収集や日本の占領時代の経験者へのインタビューを行いたい。また今回の現地視察で入手した資料をはじめとした具体的なテキストの分析を行い、考察を進めたい。戸田は Tan Twan Eng と Chin Kin Onn の作品における日本の占領の描かれ方から比較考察する予定である。影山は、植民地時代の地図・写真をはじめ、手記・解説書を含めた資料を収集した上で、現在のそれらの地域に対する「まなざし」と現在利用されている状況を地誌・観光資料等から比較分析する予定である。